MAENAN SAH Journal Vol.16

～『自分で考え、判断し、行動できる生徒の育成』をめざして～ Oct. 12th, 2023

★『失敗』や『困難』との向き合い方について考えてみよう！★

SAH Journal Vol.14 で大谷翔平選手を取り上げたが、そこで紹介した CM についてもう一度紹介したい。

『僕はプロになってから 928 回も三振していて』『打たれたヒットの数は 647 で』『ホームランは 59 本打たれ』『しかも失点数はぜんぶで 281』『チャンスで 506 回凡退して』『怪我で 692 日間も投げられなくて』『試合に負けて泣いた日もたくさんあったし』『二刀流が無理だと言われたことは数えきれない』『でも、二刀流が無理だと思ったことは一度もない』

『928 回の三振』という部分だけを取り上げれば、すごい数だ。もうすぐ『1,000 回』になる。いや、現時点ではすでに超えているかもしれない。もちろん、一打席一打席の真剣勝負をしているわけだから、三振になったときには『ものすごく悔しい』『ものすごく落ち込む』はずだ。

『チャンスで 506 回凡退して』も同様だ。ここでいう『チャンス』の定義が不明だが、『ランナーが２塁か３塁にいる状況で』くらいだろうか、そこで『506 回』の凡退。チームメイトのみならず、観客たちからの期待に応えられず、ベンチに下がる気持ちはどんなものだろうか。観客からの落胆のため息も耳に届いているはずだ。信頼や期待に応えられなかった自分への『情けなさ』も感じたはずだ。

『怪我で 692 日間も投げられなくて』を想像して欲しい。大好きなことが『約２年間できない』のだ。『復活の確約』だってない。『絶望』する人もいるかもしれない。しかし、投げられない期間に大谷選手から絶望の表情は見られなかった。いつも『楽しげ』にチームメイトや通訳の水原氏とじゃれ合っていた。現在も肘を再び故障し、手術をし、投げられない期間が長期化することが予想される。『ピッチャーとしての終わり』だってありえるはずだ。しかし、私たちに見せる彼の表情に『絶望』はない。もちろん、ひとりになったときには考え込むこともあるかもしれないが、彼の考え方のなかに『ヒント』があるはずだ！

★最終的に『うまくいく人』が『失敗したとき』に何を考えているのか？★

【考え方①】『失敗には全て意味がある』『失敗には価値がある』と考えている！

失敗はもちろんない方がよいが、誰でも失敗はある。『せっかく失敗した』のだから、『活かさないともったいない！』と考えているのだ。ちょっとネガティブな考え方だが、『この失敗から学ばないと、また同じことが起こる！』『もうこんな想いは嫌！』と考え、『修正』『改善』に励んでいる人も多いのではないだろうか？

【考え方②】『あのときの失敗があった』から『今の自分がある』と言えるように、『今何を修正すべきか？』と考えている！

よく金メダリストの取材で、自分の部屋やロッカーに『自分が負けたときの新聞記事』を貼っているという場面を数回見たことがある。過去に勝ったときの記事ではなく、『負けた記事』だ！『忘れてはならない！』『もうこんな想いは嫌！』ということを思い出させてくれるものをあえて目につくところにおくことは、『失敗を受け止め、一歩踏み出す』ことにつながるのだろう。『なかったことにする』『忘れる』では、『また同じことが起こる』かもしれないからだ。

【考え方③】『自分の人生に影響を与える事ができるのは自分自身のみ！』『私が我が運命の指揮官！』と考えている！

もちろん、支えてくれる人はいる。ヒントをくれる人もいる。しかし、『依存してはいけない』のだ。『自分が自分の人生の中心』にいる。人のせいにしていてはいけない。『当事者意識』を持ち、『自分の人生』をよくするために『何ができるか？』『何をすべきか？』を考えるのだ。そのなかで、誰かが自分のために言ってくれたこと、してくれたことの効果が大きいことがある。そのときは『感謝』しよう！そんな方々がいたから頑張れた！と思えることも多いはず！

【考え方④】『ピンチ』や『逆境』を『チャンス』に変えるために、『今何をすべき？』と考え、『やる気』を増幅させている！

『ピンチ』ほど『チャンス』に変わりやすい。『絶好調』ほど、『大失敗』につながりやすい。故事成語にも、『禍福は糾（あざな）える縄の如し』『塞翁（さいおう）が馬』など、『不幸』が『幸』につながったり、その逆になったりすることは多いのだ。だから『意思』をもって行えば、さらに『確率は上がる』はずなのである！『逆境』に身を置いた場合には、『もう上がる』しかないのだ！そう考えることで『やる気』を生み出しているのだ。

★『失敗はある』という前提で『どう対処するか？』を考えてみては？★

12 年前のベネッセの CM を紹介したい。『考えて、やっと、見えてくる。そうだ。あきらめの悪い奴が、最後は勝つ。ライバルはいつも、自分の中にいる。』というものだ。

『うまくいかない』と思うことは何万回、『失敗』も何千回もある。その経験をしない人はいないのだ。誰にでも『失敗』はつきものであり、『あたりまえ』のことだ。『失敗』が問題ではなく、『失敗したときに、どう対処するか？』が大事なのだ。なにをしたらよいか、すぐに思いつかないときもあるだろう。しかし、『一歩』となる策を見出して欲しい。私も『困難』に陥ったときに下を向かず、『逆境サイコー！』と言える自分になりたいと思い、戦っている。文責：星野　亨（教頭）